

[illegible]

★ ★ かがくで遊ぼう!

崇城大学

テクノファンタジー

2007 開催 10月21日[日] 10:00~15:00

小学生から中・高校生、一般の方まで
誰もが科学で楽しく遊べるイベント
崇城大学テクノファンタジーには
おどろきや発見がいっぱい!



10時から30分おきに
JR上熊本駅と崇城大学の間を
シャトルバスが運行



同時開催

**2008年度
入学者対象** **入試相談会**

お問合せは入試課まで
●Tel) 096-326-6810
●E-mail) nyushi@ofc.sojo-u.ac.jp

崇城大学

SOJO UNIVERSITY

- 工 学 部** 機械工学科／ナノサイエンス学科／エコデザイン学科
 建築学科／宇宙航空システム工学科＜航空整備士コース＞
芸術学部 美術学科／デザイン学科
情報学部 電子情報ネットワーク学科／ソフトウェアサイエンス学科／
 コンピュータシステムテクノロジー学科
生物生命学部 応用微生物工学科／応用生命科学科
薬学部 薬学科
大学院工学研究科
 ＜博士後期課程＞エネルギーエレクトロニクス専攻／
 機械システム工学専攻／応用化学専攻／環境社会工学専攻／
 応用微生物工学専攻／応用生命科学専攻／
 ＜修士課程＞電気・電子工学専攻／機械工学専攻／応用化学専攻／
 建設システム開発工学専攻／宇宙航空システム工学専攻
 応用微生物工学専攻／応用生命科学専攻／
大学院芸術研究科
 ＜博士後期課程＞芸術学専攻
 ＜修士課程＞美術専攻／デザイン専攻

SOJO 検索

〒860-0082 熊本市池田4-22-1
TEL.096-326-3111 (代表) FAX.096-326-3000
広報誌「かくふう」第45号 発行/2007年9月
崇城大学広報誌編集委員会・広報課 (koho@ofc.sojo-u.ac.jp)

The cover features the title "SOJO UNIVERSITY PUBLIC INFORMATION MAGAZINE" in large, bold, yellow capital letters. The word "SOJO" is significantly larger than "UNIVERSITY PUBLIC INFORMATION MAGAZINE". Inside the second "O" of "SOJO" is a circular logo containing the stylized Japanese characters "丘風" (Hirafū) above three green triangles and the text "崇城大学 ● 広報誌" (Sōjō University Public Information Magazine) and "かくふう" (Kakufū). Inside the fourth "O" is the text "VOL.45", "Autumn", and "2007". At the bottom right, there is a small graphic of a torn paper edge with the text "とな閃光" (Tonan Hōkō) written on it.

SOJO

UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION
MAGAZINE

丘風
崇城大学 ● 広報誌
かくふう

VOL.45
Autumn
2007

とな閃光



VOL.45
Autumn
2007

卷頭
特集

アートな閃光



AO試験	後期	実施学部	■工学部 ■芸術学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		エントリー受付期間	11月12日[月]～11月22日[木]
		願書受付期間	11月29日[木]～12月07日[金]
		試験日	12月13日[木]
		合格発表	12月19日[水]

特別選抜試験	実施学部	■芸術学部
	願書受付期間	09月13日[木]～09月28日[金]
	試験日	10月06日[土]
	合格発表	10月10日[水]

指定校推薦試験	前期／専門高校	実施学部	■工学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願書受付期間	09月13日[木]～09月28日[金]
		試験日	10月04日[木]
		合格発表	10月10日[水]
	後期／全指定校	実施学部	■工学部 ■芸術学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願書受付期間	10月22日[月]～11月02日[金]
		試験日	11月09日[金]
		合格発表	11月16日[金]

推薦試験	普通高校専門高校	実施学部	■工学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願書受付期間	10月22日[月]～11月02日[金]
		試験日	11月09日[金] 10日[土] ※試験日選択型
		合格発表	11月16日[金]
	一般専願	実施学部	一般 ■芸術学部 ■薬学部
			専願 ■航空整備士コース ■薬学部
		願書受付期間	10月22日[月]～11月02日[金]
		試験日	11月09日[金] 薬学部(専願)
			11月10日[土] 航空整備士コース(専願)・芸術学部・薬学部(一般)
		合格発表	11月16日[金] ※薬学部は11月20日[火]

自己推薦試験	前期	実施学部	■工学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願書受付期間	11月29日[木]～12月07日[金]
		試験日	12月12日[水]
		合格発表	12月19日[水]
	後期	実施学部	■工学部 ■芸術学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願書受付期間	02月12日[火]～2月25日[月]
		試験日	03月03日[月]
		合格発表	03月07日[金]

一般試験	前期	実施学部	■全学部(航空整備士コースは専願試験)
		願書受付期間	01月07日[月]～01月25日[金]
		試験日	01月31日[木] 02月01日[金] ※試験日選択型
			※航空整備士コースは01月31日[木]のみ
	後期	合格発表	02月10日[日] ※薬学部は02月14日[木]
		実施学部	■全学部(航空整備士コースは専願試験)
		願書受付期間	02月18日[月]～03月10日[月]
		試験日	03月14日[金]
		合格発表	03月22日[土]

大学入試センター試験利用試験	前期	実施学部	■全学部
		願書受付期間	01月07日[月]～02月04日[月]
		試験日	本学独自試験は課さない
		合格発表	02月10日[日] ※薬学部は02月14日[木]
	後期	実施学部	■全学部
		願書受付期間	02月18日[月]～03月11日[火]
		試験日	本学独自試験は課さない
		合格発表	03月22日[土]



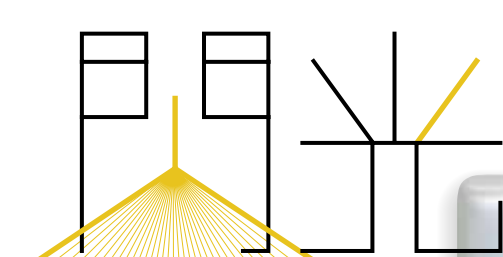
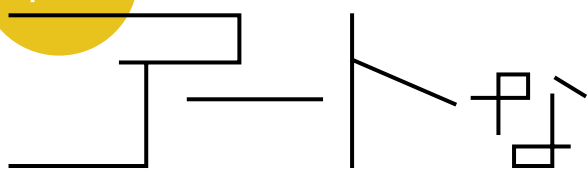
■表紙アートは2007年3月、大学院修士課程芸術研究科・美術専攻を修了した香山理志(こうやまたかゆき)さんの修了制作「Asura」。三面六臂(三つの顔と六つの腕)の姿をもつ阿修羅を仏像・具象・フィギュア、三体の木彫で表現した作品。「仏像とフィギュアやキャラクターに対する美術的評価の異なりに疑問を抱いたことが着想の原点。本来これらはすべて想像の産物。各像のちがいを明確にしながら、共通点を感じてもらいたかった。僕の反骨精神から生まれた作品です」と香山さん。修士課程の修了後は「モノづくりを続けたい」という強い思いから、埼玉県の(株)サントムに勤務。食玩の制作に携わり、キャラクターの原型やサンプルを制作する毎日を過ごしている。



CONTENTS

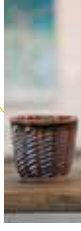
- 02 Special Feature アートな閃光
- 07 A laboratory review 芸術学部・デザイン学科 都市環境デザイン研究室
- 08 情報学部・電子情報ネットワーク学科 吉岡研究室
- 09 License Guidance 甲種危険物取扱者 基本情報技術者
- 10 The history of a professor 生物生命学部・応用生命科学科 藤原邦雄教授
- 11 NEWS 本学教員が受賞 トレンドマガジン「DIME」がU-ドリンクを紹介 大庭教授が新聞社主催の食品セミナーで講演 八田教授が癌治療作用をもつ新型フラレーンを開発 星加准教授が個展 山鹿市にサテライト研究室 平成18年度ベストティーチング賞授与式 本学主催「進学説明会」を開催 益城町・宇城市と協力協定を締結
- 13 TOPICS NHK大学ロボコン全国大会に2年連続出場 チーム・エアロスペースが無念の失速 学長杯争奪ソフトボール大会 学生3名が国際会議で発表 上岡研究室が活躍 哀川翔主演映画に学生がエキストラ出演
- 15 SOJO as it is 航空宇宙工学ヨーロッパ研修 ドイツ・ハイデルベルグ市サマースクール
- 16 Active graduate 株式会社さわの道玄・小崎亜由さん 株式会社九電工・林洋介さん
- 17 International exchange it 国際交流だより Club's now 居合道部 SO-pha バリボー
- 18 Nature watching of campus キャンパスの自然ウォッチング@44
- 19 Disclosure 2006 平成18年度監査報告
- 21 Cooperation with region 地域との連携 Information 平成19年度同窓会総会
- 22 学友会から「井芹祭」のお知らせ SOJO college information 崇城大学専門学校からのお知らせ

Special Feature



※青空が見える差し込み口がカタカナの「エ」に見えるというアイデアは、2000年熊日デザイン賞「ホタテ部門」自由題の部3席に選ばれた熊日亮太くん(工学部デザイン学科グラフィックコース4年生)の作品。環境にやさしい省資源なロースタイルの必要性を訴えるポスターのタイトルにシニセル。

2000年、熊本工業大学は芸術学部を開設し、崇城大学へと改称します。人々の「なぜ工業技術系の大学が芸術を……」といった驚きに対して、「人類で初めて飛行機や機械式計算機を設計した科学技術者は、モナリザを描いた芸術家、レオナルド・ダ・ビンチ“だった”」との思いが、当時の中山義崇・前学長の胸中にあったような気がしてなりません。そして7年、工業技術系の大学に開かれた芸術学部は、熊日デザイン賞や熊日女性絵画展、富山県美術公募展において、学生たちが栄えある賞に輝くまでに――。アートを専攻することで、社会へ「アートな閃光」を放つ、次代のクリエイターやアーティストがいかにか育成されているのか、5名の受賞学生らを通じてレポートします。





理系学生が刺激を受けた 三者三様の“熱”視線

新進デザイナーの発掘を目的に熊本日日新聞が主催する「熊日デザイン賞」。第53回を数える今年度の応募総数は1,150点。入賞・入選を果たした約6%（71点）に本学芸術学部デザイン学科グラフィックアートコースに学ぶ3名の学生、5作品が入ったことは“快挙”といっても過言ではないでしょう。「グラフィックデザインは純粋アートとちがって、第三者の評価を得なければ意味がない。自己満足に陥らないクリエイティブを心がけるためにもコンペ出品は意義深い」と語るのは、ポスター部門・自由題の部で三席と奨励賞、課題の部で入賞を果たした4年次生の馬頭亮太くん。三席となった作品は、青空が見える差し込み口がカタカナの「エコ」となっているコンセントにより、環境に配慮した省エネ生活を訴えたポスター。クリエイティビティはもちろん、PCを用いた技術力も高く、デザイン事務所等から“即戦力として入社を”と誘われてもおかしくない彼ながら「卒業後は海外のデザイン学校へ留学し、崇城大で学んだことを発展させたい。目標は世界を舞台に活躍するグラフィックデザイナーになることですから」とのこと。同じ4年次生で、ビジュアルアート部門に入選した工藤幸恵さんは「子供時代を過ごした神戸にある、憧れのデザイン会社に就職することが今の目標。今回の入選がそのフォローになればうれしいですね」。アクリルやコンクリート、和紙、コーヒー(!)など、多様な素材を用い、トキとヤンバルクイナという絶滅危惧種を描いたこのイラストレーションが、彼女の未来を拓くことに期待します。



「まったくなにも考えず、無心で描いた作品です」。黒塗りの下地に爪楊枝で大小の水玉を描き、モノトーンの心象世界を表現した作品が、ビジュアルアート部門の二席に輝いた東祐太郎くんはまだ3年次生。作品と同様、「将来のことはなにも考えていません。今後も無心で描き続けるだけ」と笑えるのは、ここまでの学びへの自信のあらわれ。「どれだけ頑張って勉強しても、それが結果にあらわれるかどうか不確かなデザインという領域。バイオや薬学を学び、将来を確かなものにしようとする私たちにとって、3人は理解の範囲をこえた存在。でもそれだけに刺激もたっぷり。同じ崇城大生として“負けられない”って気になりました」。生命生物学部4年次生の甲斐絵美子さん、薬学部2年次生の坂田光平くん、取材に同席した2人の理系学生のコメントこそ、熊本工業大学が芸術学部を開設し、崇城大学へと改称・進化をめざした理由のひとつといえるでしょう。

Ryota BATO



Sachie KUDO



Yutaro HIGASHI



2007熊日デザイン賞
ポスター部門 自由題の部／三席・奨励賞
課題の部／入選

馬頭 亮太くん／芸術学部 デザイン学科 グラフィックアートコース4年次生（鹿児島県・錦江湾高校出身）

●**Comment** 崇城大に入学するまで、本格的な美術経験はゼロ。デッサンなんか“なっていない”って感じていた。そんな僕が栄える三席を受賞できたのは、仲間との切磋琢磨や先生の手厚く厳しい指導のおかげ。これまでの作品はデジタル100%だったけれど、今回は手描きも加えており、それを含めて評価されたことは、クリエイターとしての自信につながりますね。

2007熊日デザイン賞
ビジュアルアート部門／入選

工藤 幸恵さん／芸術学部 デザイン学科 グラフィックアートコース4年次生（熊本県・大津高校出身）

●**Comment** この作品、実は昨年と同賞に応募するために描き始めたものなんです。でも締め切りに間に合わず、2年越しでようやく完成させた作品が入選となり、とてもうれしく思っています。崇城大を志願する際、美術学科にするかデザイン学科にするか、とても迷った私。4年次生になり、デザイナーとしての将来を迷わず見つめられていることもうれしいです。

2007熊日デザイン賞
ビジュアルアート部門／二席

東 祐太郎くん／芸術学部 デザイン学科 グラフィックアートコース3年次生（熊本県・文徳高校出身）

●**Comment** 「応募する限りは表彰されたい」と当初は思っていたけれど、描き進める間に“無心”で没頭。その結果の二席に、自分自身とても驚いています。デザイナーをめざすか、イラストレーターをめざすか、それとも……今は将来についても“無心”ですが、それが今回のように良い結果につながるよう、創作に没頭できる自分を大切にしたいと思っています。

Emiko KAI

甲斐 絵美子さん／生命生物学部 応用微生物工学科4年次生（鹿児島県・加治木高校出身）

●**Comment** 作者から創作の意図を聞いたのは今回が初めて。皆さんの発想力の豊かさに脱帽しました。また、入学時からバイオ系企業への就職を意識して学んできた応用微生物工学科生である私にとって、学ぶモチベーションの原点が「好きだから」というデザイン学科生たちは驚くべき存在。3人を見習い、私も「もっと勉強を好きになろう!!」と思いました。

Kohei SAKATA

坂田 光平くん／薬学部 薬学科2年次生（福岡県・三池高校出身）

●**Comment** 薬剤師をめざして勉強している僕ですが、実は子供の頃から絵が好きで、得意でした。それだけに先輩たちの「創作を仕事に」という決意がどれほど勇気のいることが、とてもよくわかります。同時に大学とは、知識や技術だけでなく“感性”を磨く場であることもわかった。今あらためて「芸術学部が隣にある崇城大の薬学部に来てよかった」と感じています。

第24回 熊日女性絵画展
熊本県文化協会賞
受賞学生が見つめる

自分



第62回 富山県美術公募展
彫刻部門大賞
受賞院生が見つめる

出会い



建築学科生を驚歎させた 純粋無垢な才能のきらめき

今年で第24回を数える「熊日女性絵画展」。応募総数189点の中から、準グランプリにあたる「熊本県文化協会賞」に輝いた藤吉美里さんは、本学芸術学部・美術学科日本画コースの2年次生。受賞作を描き始めたのは1年次の2月。授業の課題ではなく、習作として描いた作品での受賞は快挙。取材に同席した工学部・建築学科4年次生の本田良輔くんも「身近にそんな天才がいたとは」と驚き。

「作品名である“mement mori～死を想え”というラテン語の言葉にふれたのが創作のきっかけ」。淡々と語る彼女ながら、モチーフを決めるには苦労した様子。「コースの中村賢次教授に相談したら“肩ひじ張らず自分の周囲から見つければ”とアドバイスを受けてました」。それで学内にあった水牛の頭蓋骨と車輪を見つけ、輪廻転生をテーマに描き始めたら「どこで筆を置いたら良いかわからなくなって……」。ふと知った熊日女性絵画展の応募締切日を「筆を置く日に決めた」という彼女。表彰式で「死を表すモチーフと“生”を感じるリンゴのコントラストが素晴らしい」と講評を受けたことについても「深く考えず、赤色を加えたかっただけ」と笑顔。そんな彼女が現在、授業で取り組んでいるのは自画像。「見つめたくない自分を、見つめなければ描けない。悪戦苦闘しています」。アーティストにとって“自分を見つめる”は永遠のテーマ。この壁を乗り越えるであろう彼女へ、期待は高まるばかりです。

Misato FUJIYOSHI

第24回 熊日女性絵画展
熊本県文化協会賞



藤吉 美里さん
芸術学部 美術学科 日本画コース2年次生
(熊本県・第二高校出身)

●Comment 高校卒業から1年間、金沢にある公立の美大で空間デザインを勉強していたんです。でも純粋に絵が描きたくなくて、故郷・熊本に戻ってきたのですが、指導を受けることになった中村教授は同大学の大学院出身。不思議な縁を感じつつ「恩師と出会えた」ことへの喜びもいっぱい。今回の受賞も先生のアドバイスのおかげです。



Ryosuke HONDA



本田 良輔くん
工学部 建築学科4年次生
(熊本県・阿蘇高校出身)

●Comment 専攻は建築学。卒業研究に取り組む今、藤吉さんの作品から設計にも芸術性が不可欠であることを痛感させられました。また、同じ“ものづくり”であっても僕はこれまで、彼女ほど「自分をさらけ出す」ことはしていない。卒業後は崇城大の大学院に進む予定。芸術系院生とのコラボにも積極的に取り組み、今日のような刺激を受けたいと思います。

感謝をこめた作品がもたらす 情報学部生の素直な感動

「受賞の報せが入ったのは出身中学校での教育実習中。地元・県展での大賞だから、美術の先生の驚きも相当でした」。本学大学院修士課程1年次で彫刻を専攻する森田一成さんの受賞作「双」は“人と人の出会い”を2体の彫像であわした作品。「高校時代、彫刻の楽しさを教えてくれた工芸の先生。その先生に彫刻の道に進むなら第一人者から学べと薦められ出会った中村晋也芸術学部長。大学受験の夏に東京の美術講習で教わり、憧れ続けていたら僕が4年次生になった春、崇城大へ赴任してこられた勝野眞言教授。それら先生方との出会いへの感謝をこめた作品です」。そんな彼も学部3年次の1年間は極度のスランプ。「卒業後は気分転換を兼ねて東京の大学院に進もうか」と思っていたら勝野教授が赴任。「本学大学院に進み、勝野教授から続けて指導を受けようと思ったスランプも解消」と約1年半前のことを振り返ってくれた森田さん。

「先輩の彫刻からは生命力が伝わってきます」。感動を素直にあらわす情報学部ソフトウェアサイエンス学科1年次生の民輪藍さん。彼女の「大学院修了後は?」との質問へ「これまでは出会いを“もらう”ばかりだった。恩返しの意味を込め、出会いを提供する立場になりたい」と答える彼の視野にあるのは美大の教員。「学生を支えつつ自身の創作に一切妥協されない、中村学部長や勝野教授のようになれたら……」。次作でさらなる受賞をめざす彼が、彫刻実習室で“熱い夏”を過ごしたことは言うまでもないでしょう。

Kazunari MORITA

第62回 富山県美術公募展
彫刻部門大賞



森田 一成さん
大学院芸術研究科 修士課程 美術専攻
(彫刻) 1年次生(富山県・井波高校出身)

●Comment 今回の富山“県展”への応募は高校時代の先生や仲間へのメッセージでもあり、意気込みも相当でした。また、地元の北日本新聞が僕のことを「崇城大大学院生」と紹介してくれ、北陸地域での大学の知名度向上にも少しは貢献できたはず。皆さん喜んでくださり、ささやかだけど恩返しとなり、とてもうれしく思っています。



Ai TAMIWA



民輪 藍さん
情報学部 ソフトウェアサイエンス学科1年次生
(長崎県・佐世保北高校出身)

●Comment 芸術学部棟に入ったのも初めてなら、作品を間近で見たのも初めて。これまで、私たちがめざすITエンジニアとアーティストは“真逆”の存在とと思っていましたが、森田先輩の真摯さにふれ「見習うことが多い」と感じました。先輩のように“寝食を忘れて”勉強に打ち込めば、手が届かない夢はない! でしょうからね。

exhibition report 2007.6→8

芸術学部ゼミ生や院生
卒業生や教員が作品展により
社会へアートな閃光を放っています

WORKS

●馬場菜津美×中国ゆう子 作品展(6月26日～7月1日)／熊本県立美術館分館) 本学・修士課程で洋画を専攻する馬場菜津美さんと日本画を専攻する中国ゆう子さん、自他共に認める“仲良しでありライバル”が「崇城大6年間の集大成」として取り組んだ二人展。6日間で約600人の来場があり「作品への責任感が変わった」とのこと。



●洋画に多く見られる自画像を日本画で描く中国さん(写真左)。日本画のように落ち着いた筆致で植物を洋画として描く馬場さん(写真右)。作品の相違はもとより、性格も行動も“水と油”らしく、それらコントラストが好評を博した。



look and feel 3

●森野ゼミ作品展(5月22日～6月3日)／崇城大学ギャラリー) 芸術学部デザイン学科クロスメディアデザインコース森野晶人講師のゼミ生たちによる作品展。「時・感」をテーマに創作された写真や映像、CGなど、12点の意欲作が展覧。



花鳥風月考

●教員4名作品展(5月22日～6月3日)／熊本県立美術館分館) 美術学科日本画コースの鹿見喜昭教授、デザイン学科アートクリエーションコースの三枝泰之教授と宇佐美陽一教授、クロスメディアデザインコースの森野晶人講師、4人の芸術学部教員によるコラボレーション展。



Joint 2007

●卒業生作品展(7月31日～8月12日)／崇城大学ギャラリー) 阿南友理、井出妙央子、岩永恵理、竹ノ下友基、松永あかり、柳田也寿志、6人の卒業生による作品展。各人が芸術学部で学んだ日本画、洋画、彫刻、デザイン、各領域の作品を展覧。



新しいまちづくりへ デザインの力でよりよい コミュニケーションを



原田講師

●まちって誰がつくっているの?誰もが美しいと感じる街並み(ヨーロッパの歴史的な街並みなど)はどのようにつくられているのだろうか?普段、何気なく暮らしている街をよりよくするためにはどうすればいいのだろうか?身近な都市空間をデザインの題材として考えることが研究のテーマです。

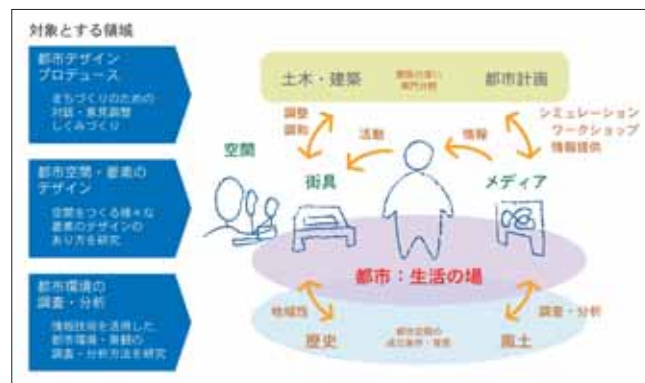
●都市に関わる仕事は、都市計画、建築、土木、造園などの古くからの専門分野があります。崇城大学にもエコデザイン学科や建築学科など、工学系の専門分野があります。しかし、都市は様々な人々の生活の場でもあります。現代のまちづくりでは、専門家だけでなく、地域の住民の意見も取り入れるプロセスが重要です。専門的な内容を住民にわかりやすく伝える、素人の抽象的な意見を具体化する、将来の街のイメージを共有するなど、意見調整を円滑に行うためにはコミュニケーション能力が必要です。これはデザインの得意な分野です。デザインの力でよりよいコミュニケーションをつくるのが新しいまちづくりにつながると考えています。

芸術学部 デザイン学科
都市環境デザイン研究室
指導教員/原田和典 講師(芸術修士)
研究テーマ/
都市デザインの成立過程に関する研究
都市要素のデザインと地域性の表現に関する研究
情報技術を活用した都市景観の分析方法に関する研究

City environmental design Laboratory

原田和典講師 この1年の主な活動

- 「熊本駅周辺都市空間デザイン会議」委員として、新しい熊本の玄関口となる熊本駅周辺の空間デザインを考えています。
- 「山鹿市景観審議会」委員として、歴史的な街並みの残る山鹿市がこれからどのような街づくりを進めればいいのか、考え方を整理しています。



都市環境領域の概念図

学生に きく

この研究室を選んだ理由は?

- 景観デザインに興味があり、新幹線開通に向けて工事中でもきれいな街づくりの提案をしたかったからです。現在、「工事中の仮囲いの提案～熊本駅周辺整備に向けて～」を研究テーマにがんばっています。

原田講師の研究についての感想は?

- 人と人をつなぐコミュニケーションをコンセプトにデザインされており、その成果として、私たちのいる街がよりよくなると思います。

研究室の雰囲気は?

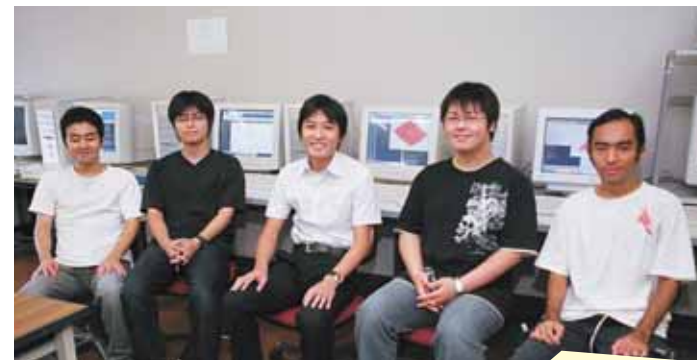
- 空間デザインから木工のようなものづくりまで、幅広く学ぶことができて楽しいです。

原田講師はどんな先生?

- どんな質問に対しても的確にアドバイスしてくれる。でも、一緒にお酒を飲むと意外な一面が見られますよ(笑)。



芸術学部
デザイン学科 4年次生
辻 丈士くん
熊本県・八代南高校出身



吉岡助教

Yoshioka Laboratory

情報学部
電子情報ネットワーク学科
吉岡研究室
指導教員/吉岡大三郎助教 博士(工学)
研究テーマ/
カオスの情報通信分野への応用に関する研究



情報学部
電子情報ネットワーク学科4年次生
古川 祐輔くん
熊本県・熊本国府高校出身

学生に きく

この研究室を選んだ理由は?

- 取り組んでいる研究のテーマはカオス符号のマルチキャリア方式直接拡散符号分割多元接続(MC-DS-CDMA)通信への応用に関して。就活時、企業にアピールできるこのテーマに取り組みたくて、吉岡研究室を選びました。

吉岡助教の研究についての感想は?

- CDMAシステムは第3世代(3G)携帯電話などで実用化されている通信方式です。現在では、さらなる大容量、高速通信を可能とする次世代の第4世代(4G)通信方式の検討が必要とされ、国内外において研究が進められています。先生の研究はその次世代システムを支える基盤技術の研究であり、大容量通信を可能にするMC-DS-CDMA方式にカオス符号の長所を取り入れ、通信品質の改善等の有効な結果を得ることができ、社会的意義の大きいテーマです。

研究室の雰囲気は?

- わが研究室にはLinux, Windowsを搭載したPCやプリンター、ホワイトボードなど、必要なものはすべて揃っており大変研究しやすい環境ではないかと思います。最近は卒業研究とは別に卒研生でLinuxを使い、ネットワークサーバを構築しようという話がでています。

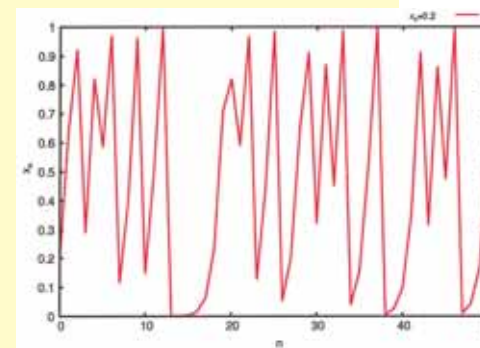
吉岡助教はどんな先生?

- とても頼りになる先生です。分からないところは徹底的に教えて下さいますし、私たちのために遅くまで学校に残って研究を支援して頂きました。とても思いやりのある優しい先生です。

- ある簡単な規則から生まれる不規則な現象である「カオス」の情報通信分野への応用を研究しています。
- 現在のIT社会においては、情報セキュリティの概念がとりわけ重要とされています。情報を送る際に、ある不規則な符号を用いて情報を隠ぺいする必要があります。その際に用いる符号が簡単に解読されては意味がありません。それと同時に携帯電話等のモバイル機器に代表されるように、小型化、集積化が容易に実現できることも望めます。そこで、上述のカオスの性質に着目し、高性能かつ集積化も可能な情報通信システムを検討するのが当研究室の課題です。

吉岡大三郎助教 この1年の主な活動

- 9月5日から7日に開催される国際会議「The second International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC) 2007」にて、カオス符号を用いたMC-DS-CDMA通信システムの性能解析について研究発表を行います。
- 論文タイトルは「Performance of MC-DS-CDMA systems employing chaotic binary sequences」です。



カオスの例:簡単な方程式 $4x(1-x)$ から得られる不規則な軌道

甲種危険物取扱者

難関資格を在学生4名が取得!!



写真左から岩切弘輝さん、戸山智司くん

●資格概要／火災予防の見地から、一定数量以上の危険物を貯蔵し取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設に必ず置かれ、第1～6類にわたる全類の危険物の取り扱いと点検、保安の監督ができる国家資格。

●第1～6類にわたる全類の危険物の取り扱いと点検・保安の監督ができる国家資格、「甲種危険物取扱者」は工学部ナノサイエンス学科と生物生命学部応用微生物工学科、応用生命科学科を卒業すれば受験資格が得られます。但し「化学に関する科目15単位以上」を取得すれば在学中に受験可能であり、平成19年度試験で次の在学生4名が合格。資格を取得しました（平成18年度に1名・平成17年度に5名合格）。

<平成19年度合格者>

- 大学院修士課程応用化学専攻1年次生
岩切 弘輝さん（鹿児島県・鹿児島第一高校出身）
- 工学部ナノサイエンス学科4年次生
戸山 智司くん（山口県・山口中央高校出身）
- 生物生命学部応用生命科学科3年次生
塩田 美幸さん（福岡県・伝習館高校出身）
- 生物生命学部応用生命科学科3年次生
北島 知子さん（福岡県・筑紫高校出身）

●本学での取り組み／工学部ナノサイエンス学科では、1年次の開講科目である基礎分析化学、分析化学、基礎有機化学を支援講義として、受験教科の「物理および化学」の内容を扱っています。また、資格をもった教員が受験支援として、試験の告知や願書の手配など学生をサポートし、アドバイスする体制も整っています。他学科についてもサポート体制をとっております。

基本情報技術者試験 (FE)

●経済産業大臣より合格証が交付される国家試験。情報技術全般の基礎的な知識（情報システムの開発・運用・利用等）を評価する「情報処理技術者試験」の中での入門的技術水準の試験。アドミニストレーター（AD）がコンピュータを使う立場のユーザ技術であるのに対して、FEはソフトウェアなどのシステムを開発し運用する技術者をめざすもの。ソフトに限らずハードのことまで、幅広い知識を求められます。IT化が進む一般企業でも重要視されており、技術レベルの目安となるため、免許の所有を推進している企業も多数。就職活動の大きなアピール材料になる資格です。

資格取得を推進している企業も多く 就職活動の大きなアピール材料になります

●本学の取り組み／情報学部ソフトウェアサイエンス学科は、低学年においてFEの試験が受験できるようなカリキュラムが授業へ組み込まれており、試験対策用の演習などもあります。また、受験者への配慮として、申請書が簡素化でき送料がいらぬ団体申請も行っています。コンピュータシステムテクノロジー学科においても特別講義等を設け、受験を支援しています。

The history of a professor

教授に歴史あり……シリーズ③

学業は高校・大学ともに「？」ながら
大学院で刺激を受けて一念発起の猛勉強!!
薬学博士としての知識の基礎を構築

高校時代 学業は鳴かず飛ばすで
遅刻間際に学校に駆け込む毎日

●入学早々にバレーボール部に入部。放課後はよく練習しました。しかし2年生になると、私より上手な1年生が入部してきて……バレーボール熱は冷めてしまいました。
●学業成績は約2年間、原因不明の偏頭痛に悩まされたことも手伝って、鳴かず飛ばずの状態でした。それでも友人は多く、毎朝、遅刻間際に皆で学校に駆け込んで登校したのを思い出します。

大学時代 勉学は相変わらず低空飛行
定期試験でもよく打ち落とされた

●ギタークラブに入部しました。だけど、皆とは一緒に練習せず、我流で「禁じられた遊び」や「アルハンブラ宮殿の思い出」など、トレモロを弾いていました。また野球部やヨット部にも、半ば幽霊部員として在籍していました。2年次には友人数名でチームを組み、長崎市民駅伝大会にも出場しました。勉学にはほとんど集中せず、低空飛行を重ね、定期試験ではよく打ち落とされたものです（笑）。

院生時代 私大出身の同期生が刺激となり
不得意であった有機化学を猛勉強

●薬学部の大学院時代、私大出身の同期生（の知識）が刺激となり、不得意であった有機化学の猛勉強（毎晩～早朝4時頃まで）を始めました。毎月1冊のペースで約2年間、書籍・文献を読みあさりました。この時の勉強が現在の自分の知識の基礎になったようです。何ごとも“食わず嫌い”をやめて一生懸命勉強すれば“必ずやおもしろくなる”ことを体験しました。



現在 免疫化学的研究に取り組みつつ
週1回は市内の社交ダンス教室へ

●取り組んでいる研究テーマは生体アミンおよび薬剤の免疫化学的研究（免疫組織化学）。研究成果は次のとおり。
①各種の異反応性二架橋試薬を有機化学的に新規に合成し、ハプテナー蛋白質化学に応用した。
②細胞機能に不可欠なポリアミン、及びヒスタミンの細胞内局在部位を世界で初めて解明した。
③オートラジオグラフィーに代わる薬剤（抗癌抗生物質）の免疫組織化学を開発し、薬剤の組織細胞内分布と毒性との関連研究を行っている。
●趣味と運動不足解消を兼ねて週1回、市内の社交ダンス教室に通っています（学生たちに華麗なステップを見せたいなあ）。



学生へ 多くの人に接し人に好かれる
人になることを心掛けよう

●授業での疑問点を放置せず、ねばり強く追求することが大切だと思います。そのためには先生の知識を利用し、気軽に尋ねて解決することが早道です。大学時代の友人は一生の友になります。多くの友人をつくりましょう。また、人に接し、人に好かれる人になるよう心掛けましょう。どこの社会も人の社会。好かれることは大物になる最大の特質です。



Photo Scrap*

6.2
後援会総会



6.8
海開き



6.9
学長杯ソフトボール大会



6.14~15
美井祭（発表部門）



7.29
デッサン講習会
in福岡



8.3
学長杯
ロボットコンテスト



8.4.26
オープンキャンパス



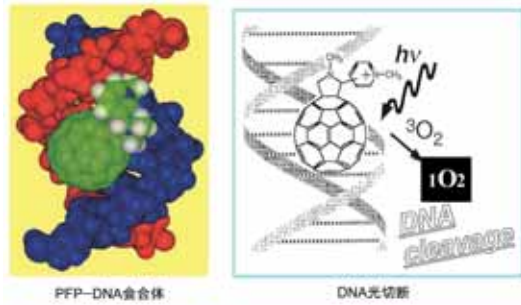
8.25
サイエンスカフェ
in福岡



工学部ナノサイエンス学科

八田教授が「癌治療作用を持つ新型フラレーン」を開発!!

科学技術振興機構（JST）が、地域イノベーション創出総合支援事業・重点地域研究開発推進プログラムの中で公募している平成19年度「シーズ発掘試験」の研究課題に、八田泰三教授（工学部・ナノサイエンス学科）の提案した「光線力療法用薬剤として機能する新規両親媒性フラレーン誘導体の合成」が採択された。研究内容は、ナノテクノロジーの火付け役であるナノカーボンの生命活性利用の実現をめざして、同研究室で開発したDNA光切断活性を発現する水溶性フラレーンC60誘導体（PFP）を悪性細胞に対する光線力療法用薬剤へ応用する、ナノメディシンに関連した実用化志向型の研究。



薬学部・薬学科

峯野講師が「National Organic Chemistry Symposium 2007 Travel Award」を受賞

薬学科薬化学研究室の峯野知子講師が「40th National Organic Chemistry Symposium (Duke Univ, USA) 2007 Travel Award」を受賞した。

トレンドマガジン「DIME」が「崇城大学のU-ドリンク」を特集紹介

小学館のトレンドマガジン「DIME」15号（8月7日発行）に、「崇城大学のU-ドリンク」の特集記事が掲載された。記事は「大学は美味しい!!」という連載の第30回目。これまで各大学のブランド食品が特集で紹介されている。「U-ドリンク」の開発は、上岡龍一教授（生物生命学部応用生命科学科）のハイブリッドリポソーム（人工細胞膜）による副作用のないがん治療の研究に注目した国税庁醸造研究所（現・独立行政法人酒類総合研究所）の研究員が、焼酎の蒸留粕の有効利用について上岡教授に共同研究を依頼した時から始まった。記事の最後は「上岡さんは大学卒業直後に父親をがんで亡くした。副作用のないがんの治療薬を作ると誓ってから30数年。ハイブリッドリポソームの研究が基礎となり生まれた「U-ドリンク」は、実学を重視する崇城大学の誇りでもある」と結ばれている（DIME15号より引用）。



生物生命学部応用微生物工学科

大庭教授が健康産業新聞主催「第3回健食品セミナー」で講演



7月20日、福岡市で健康産業新聞社主催「第3回西日本健康食品セミナー」が開催され、全国からトップレベルの企業経営者70名が参加した。講師の一人に選ばれた大庭理一郎教授（生物生命学部・応用微生物工学科）は、「九州の機能性食品の最新情報」と題し、教授が主宰する産学官食品機能性研究開発実行委員会の実情を詳細に紹介。また、実例として紫カンショの新規醸造酒「はーぶる」、カロリー半減の乳酸菌飲料、ヤーコンの健康食品等について講演した。

情報学部・ソフトウェアサイエンス学科

上野教授が「電波の日表彰」を受賞

6月1日に行われた総務省九州総合通信局九州電波協会主催の「電波の日・情報通信月間記念式典」で上野文男教授（情報学部・ソフトウェアサイエンス学科）が、九州総合通信局長表彰を受賞した。「ユビキタス技術による子ども見守りシステムに関する検討会」の座長として実証試験を成功させるなど、電波を利用した子どもの安心安全の確保に貢献した功績によるものである。

工学部・機械工学科

藤田教授が「日本塑性加工学会功労賞」を受賞

工学部・機械工学科の藤田昌大教授が平成19年5月、名古屋市で開催された「日本塑性加工学会 平成19年度塑性加工春季講演会」で功労賞を受賞した。本賞は塑性加工技術に対して多大な貢献があった個人に対して授与される賞であり、藤田教授が長年にわたり行ってきた各種爆発加工に関する研究および技術開発に関する一連の成果が評価され、今回授与されることとなった。なお、本年は藤田教授を含む9名が功労賞に選出された。

総合教育

星加准教授が崇城大学ギャラリーで個展を開催

7月7日から29日の間、崇城大学ギャラリーで星加民雄准教授（総合教育）が個展「“Motion-illusion 07” in Kumamoto」を開催した。星加准教授が1998年から制作してきた「ゆらぎ」をテーマとする作品に、今年5月に開催されたモダンアート展に出品した約10メートルの超大型作品を含む約20点を展示。個展のテーマ「Motion-illusion」とは動きの錯視のこと。ドミノのように画面全体に配列した垂直の板が、見る人の視点の移動に伴って揺れ動いて見える視覚的トリックを表現効果に活用した作品群。崇城大学ジェンベとのコラボレーションによるオープニングから最終日まで、約3週間の入場者総数は約500人だった。



山鹿市にサテライト研究室がオープン



山鹿市との連携協定により、サテライト教室「崇城大学山鹿まちづくり工房」が6月19日にオープンした。この工房を拠点とした最近の活動は、8月15日と16日に行われた日本有数の火祭り「山鹿灯籠祭」の期間中。芸術学部デザイン学科・本間研究室の4年生5名が、江戸時代の面影を色濃く残す豊前街道沿いに実験店舗を企画し、古い町並みにふさわしい店舗デザインや、伝統的な和紙工芸「山鹿灯籠」のイメージを醸し出す紙製の手持ち灯籠を試作、試験販売を行った。これらはまちなみ景観の保全と、地域に内在する観光資源をアレンジした、新たな特産品の開発をねらいとして行ったものである。



平成18年度ベストティーチング賞授与式を開催

工学部・情報学部・生物生命学部の3学部で実施された「授業に関する学生アンケート」の評価結果が上位の教員に授与する「平成18年度ベストティーチング賞授与式」が6月27日、本館6階学術講演会場で行われた。平成15年度より始まり4年目となる。式では教務部長より「学生の授業アンケートの評価は年々上がっている」と分析結果の報告があった。



＜受賞者／前期＞写真右から

- 工学部・宇宙航空システム工学科／橋本 毅 教授
- 総合教育／小原 守雄 准教授
- 工学部・エコデザイン学科／荒牧 憲隆 准教授

＜受賞者／後期＞写真左から

- 生物生命学部・応用微生物工学科／山浦 泉 教授
- 工学部・機械工学科／小野 長門 教授
- 総合教育／橋本 春男 教授

益城町・宇城市と協力協定を締結

本学は5月16日に工学部・宇宙航空システム工学科の空港キャンパスが隣接する益城町と、8月1日に生物生命学部・応用微生物工学科・大庭理一郎教授の研究に関わる宇城市と協力協定を結んだ。これで本学が結んだ協力協定は県内の10市町村と大分県臼杵市の計11市町村。ますます地域交流の活発化をみせている。



本学主催「進学説明会」を開催

6月29日、ホテル日航熊本で、熊本県内の高校の学校長および進路指導教諭を対象に「平成20年度本学主催進学説明会」が182名の参加のもと開催された。説明会は学長挨拶からはじまり、特別講演会では元ソニー副社長である中村末廣副学長（本年1月就任）が講演を行った。



NHK大学ロボコン2007全国大会に ロボット研究会「TEAM REVOLUTION」2年連続出場!!

ロボット研究会「TEAM REVOLUTION」は、一次選考と二次選考の厳しい審査を乗り越え、6月17日に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で開催された「NHK大学ロボコン2007」全国大会に2年連続2度目の出場を果たした。残念ながら決勝トーナメントには進出することができなかったものの、予選リーグの東京電機大学との対決では前年果たせなかった一勝をあげることができ、一歩ずつ確実に成長する彼らの今後に期待したい。



「エアロスペースチーム」が無念の失速

初回7位、昨年4位と快進撃を続けてきた「崇城大学・エアロスペースチーム」が7月28日、琵琶湖（滋賀県彦根市）で開催された「第31回鳥人間コンテスト2007」（主催：読売テレビ）の人力飛行機タイムトライアル部門に出場した。今までにない美しい離陸をみせたものの、水平定常飛行に移ろうとする瞬間、左翼、右翼の順に破壊し墜落。現在原因究明を行っているが、これまで気づかなかった貴重なデータが得られるものと期待される。今年は当初応募したディスタンス部門からタイムトライアル部門へのコンバートを余儀なくされるなど、不利な要因が重なったが、長距離飛行を狙って超軽量化に挑戦した学生たちの努力は決して無駄ではなかっただろう。なお、大会の様子は9月6日（木）の19時より日本テレビ系列「KKTくまもと県民テレビ」で放送された。



学長杯争奪ソフトボール大会で情報学部 コンピュータシステムテクノロジー学科が優勝

6月9日に開催された「第28回学長杯争奪学科対抗ソフトボール大会」において、情報学部コンピュータシステムテクノロジー学科が、電気工学科時代より12年ぶりの優勝を果たした。1回戦で機械工学科、2回戦で建築学科、準決勝で薬学科を撃破し、優勝戦では応用生命科学科を「3:0」で破り、念願の学長杯を得た。



情報学部電子情報ネットワーク学科 4年次生3名が国際会議で発表

7月8日から11日、韓国・釜山で開催された国際会議「The 22nd International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC) 2007」のオーラルセッションにて、電子情報ネットワーク学科の4年次生3名がそれぞれ研究発表を行った。



※写真左から古川祐輔くん（熊本県・国府高校出身）
山領裕也くん（愛知県・栄徳高校出身）
片山志士くん（熊本県・玉名高校出身）

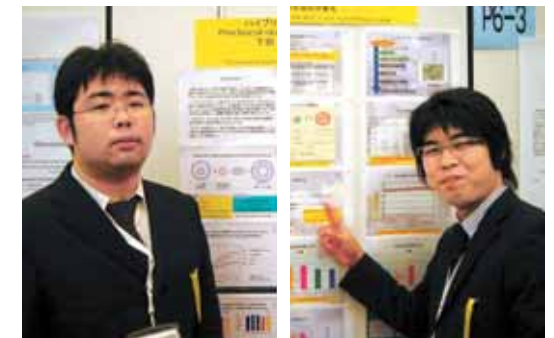
注目を集める
上岡研究室の
活躍

生物生命学部応用生命科学科 上岡教授が2つの学会で招待講演

6月22日、京都大学で行われた「第25回物性物理化学研究会」および、7月26日に大阪リゾートレクリエーションセンターで開催された「第25回関西界面科学セミナー」において、上岡龍一教授（生物生命学部・応用生命科学科）が本学で開発・臨床応用を進めている人工細胞膜によるがん治療についての招待講演を行った。どちらの学会も細胞膜の物性や界面科学などの基礎研究と異分野との融合をめざしており、上岡教授の人工細胞膜の制がんメカニズムが、がん細胞膜と正常細胞膜の流動性の違いに基づいているという新しい発見が「異分野融合のモデル」として大変注目されている。

上岡研究室の後藤准教授と古水研究員 博士課程2年次生の2名が「がん分子標的治療研究会総会」 および「日本アポトーシス研究会」で発表

後藤浩一准教授（生物生命学部・応用生命科学科）と古水雄志研究員（科研費支援者）、博士課程2年次生の下田真也くん（熊本県・文徳高校出身）と船本幸太くん（長崎県・海星高校出身）、上岡研究室の4名が7月5日から6日、大阪国際交流センターで開催された「第11回がん分子標的治療研究会総会」において発表した。この研究会は、がん細胞のみを狙い撃ちに分子標的治療薬の研究が情報交換と討論を行う会。上岡研究室が進める人工細胞膜に関してそれぞれ発表した。参加者の関心が高く、活発な質疑応答が行われた。また、古水研究員は8月3日と4日、東邦大学で行われた「第16回日本アポトーシス研究会学術集会」においてもがん細胞の死滅には理想的とされるアポトーシスを人工細胞膜が引き起こすメカニズムについて発表した。



下田真也くん（熊本県・文徳高校出身） 船本幸太くん（長崎県・海星高校出身）

哀川翔・主演映画に学生がエキストラ出演

7月19日、芸術学部1階の彫刻実習室で、俳優の哀川翔さん主演の映画「デコトラの鷲」の撮影がスタッフ総勢約30名によって行われた。本学からも芸術学部・美術学科彫刻コースの学生がエキストラで出演した。撮影に参加した3年次生の廣底友里恵さん（鹿児島県・鶴丸高校出身）は、「最初は一生に一度の経験かもしれないと思い、とても緊張しましたが、撮影が進むにつれ面白さが増し、楽しい現場になりました。貴重な思い出が得られて良かったです」とコメント。公開は来夏の予定。



最先端の技術と新鮮な知見にふれた8日間 航空宇宙工学ヨーロッパ研修

●6月23日から30日の8日間、工学部・宇宙航空システム工学科の学部生30名（4年次生1名・3年次生13名・2年次生16名）と大学院生1名が教員3名（西田・吉村・千馬）に引率され、フランスとドイツで航空宇宙工学の研修を行った。

●最初のプログラムは「パリ国際航空ショー」の見学。午前中、各国の航空機メーカーが出展する飛行機やヘリコプターを見た後、午後は総2階建てのエアバスA380-800、ミラージュ戦闘機2000C-RDI、ユーロコプターEC665 Tiger等のフライトショーを見学した。



●翌日はトゥールーズ（仏）へ移動しエアバス社でA320、A340の組み立てラインを見学。その後、ミュンヘンのドイツ博物館を訪れ、航空宇宙工学の発達史を学んだ。最後にドナウヴェルト（独）のユーロコプター社でヘリコプターの組み立てラインを見学した。

●見学・研修の合間に、パリでルーブル美術館、トゥールーズで世界遺産のカルカソンヌ城も訪れた。学生にとってはヨーロッパの航空工学の先端技術にふれることができ、大学での座学とは異なる新鮮な知識の吸収ができたと思われる。さらに日本とヨーロッパの社会システムの違いについても勉強でき、彼らの今後に多大なプラスを与えると期待される。



SOJO
as it is

難関を突破しドイツでの「ISH*2007」に 薬学部・薬学科2年次生の清住さんが参加

* International Summer science school of Heidelberg

●熊本市の姉妹都市であるドイツ・ハイデルベルグ市が中心となる「ISH / インターナショナル・サマー・サイエンス・スクール・ハイデルベルグ」に、薬学部生1名が熊本市の国際交流課による難関の試験を見事突破し、派遣が決定した。選ばれたのは2年次生の清住友香さん（熊本県・真和高校出身）。



voice

薬学部・薬学科2年次生
清住友香さん
熊本県・真和高校出身



6カ国からの参加者と1カ月間の生活を共にし
英語の重要性や積極性・協調性・自主性・
チャレンジ精神の大切さなど多くのことを学びました

●今回「ISH」に参加して多くの人と出会い、貴重な経験を行うことができました。様々な国の人々とふれあい、実際に研究室で実習を行い、私の世界観は大きく変わりました、想像以上に充実した毎日を送ることができました。「ISH」に参加して、日本という国の素晴らしさ、英語の大切さ、そして積極性、協調性、自主性、チャレンジ精神の大切さなど多くのことを学べたと思います。

●6カ国から参加者が集まり、1カ月間を共に生活するこのプログラムは、他では体験できない素晴らしい国際交流の場です。本当に夢のような夏休みを過ごせるので、ぜひこれからも多くの人に参加してほしいと思います。

Active graduate 活躍する卒業生

卒業生直撃
interview

京都で文化財修復の仕事をする今
学生時代に“もっと多くの作品を描けたはず”と
あらためて思っています

株式会社さわの道玄（京都）

●小崎 亜由さん 2004年3月 芸術学部・美術学科・日本画コース卒業

現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●勤めているのは、京都にある「株式会社さわの道玄」という文化財修復の会社です。極彩色や現状維持のための剥落止め、漆修理、金具修理など、仕事の内容はさまざまです。

学生時代の思い出を教えてください

●屋久島や高千穂、阿蘇などに行ったスケッチ研修がとても思い出に残っています。作品を制作するにあたって、スケッチはとても重要だということを知りました。

大学時代に学んだことが
今どのように活かされていますか

●膠（にかわ）や水干絵具、岩絵具のことはもちろん、和紙の貼り方など、いろんなことがとても役立っています。但し当社には、私のように日本画を専攻してきた者だけでなく、洋画やデザインを学んできた人も多く、皆で基礎から勉強し直します。



崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●今あらためて思うのは、大学生の時あんなに時間も場所もあったのですから、もっとたくさんの作品を描けたのでは……という後悔があります。こんな後悔しないように皆さん、たくさんの作品を描いてください。

将来の夢を教えてください

●美術に関わりながら楽しく暮らしていけたら、それだけで満足ですね（笑）。

卒業生直撃
interview

エンジニアとしてめざすのは
“この分野では誰にも負けない”という
自信ある技術を身につけること

株式会社 九電工

●林 洋介さん 2007年3月 情報学部・コンピュータシステムテクノロジー学科卒業

現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●株式会社九電工に勤めています。現在は研修生として、コンセントや白熱電球などを使った結線方法、建物の照明設備の設計など、基礎技術の習得中です。また、電験三種という高度な資格を取得することにより、確かな基礎知識を身につけようとしています。

学生時代の思い出を教えてください

●学生時代は自由な時間が多く、いろんなことにチャレンジしました。友だちとの小旅行、株の売買、ゲームプログラミングなど、本当にいろんなことをやってきました。その中で最も思い出に残っているのがギターを始め、バンド活動をしていたことです。

大学時代に学んだ事が
今どのように活かされていますか

●大学では常に「できることはその日のうちにやる」を心がけていました。だから課題のレポートなども人より早く、余裕を持って提出できました。当然のことながら、仕事にはすべて期日があります。大学時代に習慣化した「できることはその日のうちにやる」がとても役立っています。



崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●学業はもちろん大切ですが、その他にも「学生のうちにしかできないこと」というのが多くあります。悔いが残らないよう、1日1日を大切にしてください。

将来の夢を教えてください

●現在は電験三種、第一種電気工事士、消防設備士の資格を取得することが目標です。将来的には一つでも良いので“この分野では誰にも負けない”という技術を身につけたいと思っています。

International exchange it

国際交流だより

姉妹校ブルゴーニュ大でワイン醸造を専攻する学生が熊本の日本酒を研究目的に本学へ留学

姉妹校提携を結んでいるフランス・ブルゴーニュ大学からの交換留学生「ジュリアン・デレリュウ」くんが、今年5月から生物生命学部・応用微生物工学科の岩原正宜教授および大庭理一郎教授の研究室で学んでいます。

ブルゴーニュ大でワインの醸造を専攻している彼は現在、米の醸造酒である日本酒について研究中。熊本の酒造メーカーでインターンシップを行う予定もあり、充実した留学生生活を過ごしている様子。周囲の評価は「大変まじめな性格で礼儀正しい」とのこと。

来日当初は日本語が話せなかった彼ながら、先日は本学のラジオCMに登場。流暢(?)な日本語で自己紹介してくれました。



voice

生物生命学部
応用微生物工学科
フランス・ブルゴーニュ大学からの
交換留学生
ジュリアン・デレリュウくん
Julien Delrieu



- 日本食では刺身が大好き。得意技は耳で餃子を作る(?)ことと、ザ・タッチのものまね。日本情緒いっぱいの歴史あふれるまち、熊本での下宿生活を満喫中です。

Club's now

心身共に鍛えることを目的に日々精進しています

- 私たち居合道部は顧問・上岡先生の下、心身共に鍛えることを目的として精進しています。我が居合道で伯耆流という流派を学んでいます。木村先生、小森田先生の御指導により昇段審査では初段・弐段共に受験した部員が全員合格しています。
- また、県内外での大会において優勝・準優勝をしています。その功績が認められ一年前、部に昇格しました。
- 近年、居合道も国際化されスウェーデン人の兄弟子もいます。まだ設立5年目ではありますが共に歴史を創ってみませんか。



居合道部



主将
生物生命学部・応用生命工学科3年次生
武田真征くん
熊本県・氷川高校出身

九州薬学連盟バレーボール大会で見事な“2連覇”を達成しました!!

- 私たち「So-pha バリボー」は、今年5月4日に福岡で開催された九薬連(九州薬学連盟)バレーボール大会で、見事“2連覇”することができました!!
- そんな「So-pha バリボー」ですが、一昨年に薬学部1期生の現3年次生が立ちあげたサークル。九薬連大会の出場も今年で2回目です。
- 大会前には他大学のバレー部と練習試合を行い、自分たちの弱点課題を見つけ、それを克服する練習をしました。大会前には、先輩の友人でもある宇宙航空システム工学科の3年次生にコーチとして指導してもらいました。また、この大会を機に引退した3年次生の先輩たちですが、今も優しく(かつ厳しく)指導してもらっています。
- 九薬連の大会には、熊本大学、福岡大学、第一薬科大学、私たちの4チームが参加しました。決勝戦では強豪、第一薬科大学をセットカウント「2対0」で倒しました。
- 日々の練習や大会での先輩たちの真剣な表情は、とてもカッコ良かったです。連覇という素晴らしい伝統を次へつなぐため、来年も優勝めざして頑張ります!!



代表
薬学部・薬学科2年次生
軸丸由実子さん
熊本県・真和高校出身

So-pha バリボー

Nature watching of campus

キャンパスの自然ウォッチング @44

生物生命学部 学部長
生物研究会 顧問
岩原 正宜 教授



*キャンパスの竹林脇に発生したマントカラカサタケ

人目を引く大型キノコで傘は食用として人気がある
カラカサタケ(唐傘茸)

Macrolepiota (Lepiota) procera

マントカラカサタケ(マント唐傘茸)

Macrolepiota sp.

※どちらもハラタケ科カラカサタケ属

- 従来日本では両種は同一種と混同されていたが、最近では別種として分類されている。また、以前は*Lepiota*(鱗片をもった傘の意)属に入っていたが、現在は*Macrolepiota*(大きな*lepiota*)属に編入されている。
- 種名の*procera*は「背が高い・長い」の意で、本種の外観の特徴が良く表現されている。ちなみに英名は「parasol mushroom / パラソル・マッシュルーム」。
- 夏から秋に草原や庭園、林内等に単生〜群生する腐生菌。パラソル形の傘の径は10〜25cm、茎は中空で長さ20〜40cmになる大型キノコで世界的に分布。傘を握ってパッと放すと元に戻るので、ニギリタケとも呼ばれる。

- 傘・茎ともに食用になるが、特に傘の肉質は柔らかくスポンジ様の弾力性があり、フリッターやフライにすると美味。茎は硬いので、細かく刻冊状に刻んで、炒め物やけんちん汁に入れて食べる。
- ヨーロッパではこのキノコの傘だけをナイフで切って持ち帰るので、マツ林やナラ林の林内に柄だけが転々と残る不思議な光景も見られると言う。
- 近縁種に有害のものもあるので要注意!



*ヒダがマント状の膜で覆われているマントカラカサタケ



*傘の表面は鱗片で覆われている



*鎌崎宮の茶店の唐傘



*名前のごとく唐傘やパラソルを連想させる



*海外のカラカサタケ類の切手(左がパキスタン・右がキューバ)

白を基調にした
上品な彩りのカミキリムシ

オオシロカミキリ(大白天牛)

Olenecamptus cretaceus

※カミキリムシ科シロカミキリ属



*白地に褐色の紋が清楚で美しい(♀)

- 体長は21〜23mm程度。前翅は白色の鱗状毛に覆われているが、緑の褐色紋には個体変化が見られる。また、雄の前肢は後肢よりも顕著に長く、触角は体長の約2倍近くある。
- 成虫は6月から8月頃に出現し、ムクノキ、ケヤキ、クワなどを生食するが、灯火にも飛来する。本州、四国、九州、対馬、朝鮮半島南部に分布する。



*フードサイエンス研究所の灯に飛来してきたオオシロカミキリ(♀)

平成18年度 決算報告

資金収支計算書 (H18.4.1～H19.3.31)		(単位:千円)	
収入の部		支出の部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	5,060,904	人件費支出	3,506,192
手数料収入	72,127	教育研究経費支出	1,163,060
寄付金収入	35,188	管理経費支出	621,831
補助金収入	771,320	借入金等利息支出	37,731
資産運用収入	190,668	借入金等返済支出	495,550
資産売却収入	619,990	施設関係支出	589,019
事業収入	120,901	設備関係支出	263,487
雑収入	120,088	資産運用支出	501,000
借入金等収入	450,000	その他の支出	156,017
前受金収入	885,092	資金支出調整勘定	△ 135,145
その他の収入	198,959	次年度繰越支払金	4,146,204
資金収入調整勘定	△ 1,129,531		
前年度繰越支払資金	3,949,240		
収入の部合計	11,344,946	支出の部合計	11,344,946

消費収支計算書 (H18.4.1～H19.3.31)		(単位:千円)	
収入の部		支出の部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金	5,060,904	人件費	3,392,730
手数料	72,127	教育研究経費	2,130,463
寄付金	81,949	管理経費	793,388
補助金	771,320	借入金等利息	37,731
資産運用収入	190,668	資産処分差額	18,791
資産売却差額	77,212	徴収不能額	6,249
事業収入	120,901		
雑収入	120,088		
帰属収入合計	6,495,169		
基本金組入額	△ 718,850		
消費収入の部合計	5,776,319	消費支出の部合計	6,379,355

貸借対照表 (H19.3.31)		(単位:千円)	
資産の部		負債の部	
科 目		科 目	
固定資産	34,108,948	負債	4,791,722
有形固定資産	29,447,853	固定負債	3,165,997
その他の固定資産	4,661,095	流動負債	1,625,725
流動資産	4,372,750	基本金	43,136,951
現金預金	4,146,204	第1号基本金	42,701,951
その他	226,546	第4号基本金	435,000
		消費収支差額	△ 9,446,975
		消費支出超過額	△ 9,446,975
合計	38,481,698	合計	38,481,698

財産目録	
I 資産総額	38,481,697,835円
内 基本財産	27,419,983,643円
運用財産	11,061,714,192円
収益事業用財産	0円
II 負債総額	4,791,721,895円
III 正味財産	33,689,975,940円

平成19年度の在籍学生数 (5月1日現在)			
工学部	1,730名	大学院工学研究科	162名
芸術学部	277名	大学院芸術研究科	22名
情報学部	485名		
生物生命学部	537名		
薬学部	430名		
計	3,459名	計	184名

平成18年度 事業報告

施設・設備関係

- 従来の学生寮とは違った新しいスタイルの
崇城大学女子学生専用マンション「シャンテSOJO」を新築。
鉄筋コンクリート8階建て
延べ床面積2,817.43㎡
工事費476,499,638円
- 航空整備士コース開設のため空港キャンパスの施設設備を整備。
整備費154,539,993円
- 体育会館をリニューアル。
工事費132,531,000円
- 微生物遺伝資源保存評価システムを設置。
29,333,000円

許認可申請関係

- 国交省へ航空整備士コース(航空機整備士訓練課程)を申請し認可となる。
- 大学院・芸術研究科・芸術学専攻(博士後期課程)を開設。
- 工学部ナノサイエンス学科およびエコデザイン学科設置を届出(H18.4.26 届出)。
- 留学生別科の定員変更に係る学則変更の届出(H19.3.26 届出)。

地域交流関係

- 下記の市・企業等と連携協力に関する協定を締結。
熊本県信用金庫協会(H18.5.25)
五木村(H18.6.23)
合志市(H18.7.10)
山鹿市(H18.10.24)
宇土市(H18.11.6)
玉名市(H18.11.29)
臼杵市(H19.1.24)

国際交流(協定)関係

- 下記の大学と交流協定を締結。
中国・ハルビン医科大学(H18.9.9)
ベトナム・ハノイ土木大学(H18.11.15)

教育関係

- 本学独自の奨学金制度により166名に奨学金を授与。
- 長期履修学生制度(パートタイム学生制度)を九州で初導入。
これにより修業年限を柔軟に設定(5～10年)できることになった。

Cooperation with region

地域との連携

全国知事会議での展示に関して 熊本県が内丸研究室に感謝状を授与

7月11日から13日、熊本市で全国知事会議が開催されました。この間の11日と12日、上通り入口にある「びぶれす広場」にて、熊本県から依頼を受けた本学工学部・建築学科の内丸研究室が「熊本の火まつり」と題した展示を行いました。

同展示では歴史ある「阿蘇神社火振り神事」と「山鹿灯籠まつり」に加え、本学が開催に深く関わる新しいまつり、「みずあかり」や「本妙寺桜灯籠（はなとうろう）」、「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」なども紹介。それらまつりの雰囲気を感じ体験できるようにデザイン・作成された灯りのインスタレーションが広場を彩りました。

全国から来られた知事や都道府県職員の方々に、熊本の新たな“まちづくり”活動をアピールすることになった同展示。潮谷県知事から内丸研究室へ、感謝状が授与されました。



Information

同窓会からのお知らせ

平成19年度「同窓会総会」報告

- 7月15日、熊本全日空ホテルニュースカイにおいて「同窓会総会」を開催しました。母校・崇城大学から、学長先生をはじめ、恩師の先生方が多数ご出席され、また各種OB会からの参加を含め、総数500名を超す大同窓会を催すことができました。
- 懐かしい顔も多く見られ、お互いの近況を語り合い、旧交を深めていただきました。当日は大学見学会もあり、数十年前ぶりに見た母校のすばらしい発展に皆さん大変満足の様子でした。
- これからも学科別や学年別、サークル、そして職域など、各種OB会を結成していきたいと思ひます。卒業生の方々のご協力をお願いしします（同窓会事務局）。



もうすぐ「井芹祭」の季節です!!

<テーマ>

Live Live Live

<開催日>

11.17sat.18sun.

<主なイベント>※予定

17
日 土

- 超飛行少年（スーパーフライングボーイ）コンサート
※詳細は <http://columbia.jp/sfb/> を参照

18
日 日

- 華火大会（19時ごろ打ち上げ開始予定）
- ロッソ熊本サッカー教室
- 猿回し劇場

17 18
日 土 日 日

- ジェンベ
- ミニSL
- 井芹展（学科・サークル展）



11.3sat.

11月3日【祝/土】
恒例の市中パレードを開催
奮って参加を!!

今年の市中パレードはただの学園祭の宣伝媒体ではありません。「路上喫煙およびボイ捨て禁止」になった街中で、その意識向上を呼びかける“マナーアップ宣言”スタイルの市中パレードにしていける計画です。学生の皆さん、奮って参加をお願いします。

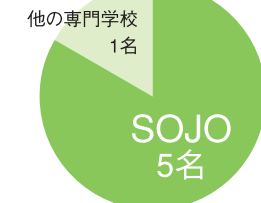
崇城大学「専門学校」からのお知らせ

平成19年度春期 ソフトウェア開発技術者試験に 専門学校生5名が合格

●今回の平成19年度春期「ソフトウェア開発技術者試験」に、崇城大学専門学校生5名が合格しました。県内専門学校におけるソフトウェア開発技術者試験の合格者数は6名。その83%を本校で占めたことになります。

なお、ソフトウェア開発技術者試験は、基本情報技術者試験の上位の検定試験であり、学生での合格は極めて困難とされています。また、初級システムアドミニストレータ試験にも1名が合格しました。

ソフトウェア開発技術者
熊本県内専門学校合格者（6名）



ソフトウェア開発技術者
試験合格者（全員2年次生）



迫田 晃治くん
鹿児島県・甲南高校出身



森山 竜介くん
熊本県・球磨工業高校出身



園田 隆人くん
熊本県・熊本商業高校出身



大平 隆史くん
熊本県・八代高専出身



村岡 敏達くん
九州東海大学出身



大友 博貴くん
熊本県・八代南高校出身

合格をフォローした 崇城大学専門学校のメリット

- 基本情報技術者試験と初級システムアドミニストレータ試験の資格対策授業が、免除講座に認定されたことを受け、本校に入学し、指定のカリキュラムを修了すれば、午前の部の試験が合格となり、試験当日は午後の部のみを受験すればよいことになります。
- また、出願時（試験の約3カ月前）に午前の部の試験免除が決定しているため、午後の部のみの試験勉強に専念でき「より合格しやすい」ともいえるでしょう。

初級システムアドミニストレータ
試験合格者（2年次生）

崇城大学 専門学校

〒860-0806 熊本市花畑町10番25号 TEL.096-323-1122
<http://www.sc.sojo-u.ac.jp/>